

ゲストスピーカー 成田昌造さん（青森中央学院大学教授）の講話

- ・教育の不変の目的は、社会的自立と子どもたちの可能性を引き出すこと。そのために私たち大人は、選択肢を示す必要がある。
- ・学校は「学び方を学ぶ」場でもある。→生涯を通じた学習への布石
- ・現在の学校の課題

①子どもたちの自己肯定感（自己存在感）を高める

②いじめ問題への対応

③不登校への対応

④インクルーシブ教育の推進

- ・不登校への対応（青森県不登校児童生徒支援に関する検討会議提言書より）

1 学校に行くことができるが教室に入ることができない児童生徒への支援

→校内教育支援センターの設置

2 学校に行くことはできないが他の所には行くことができる児童生徒への支援

→各市町村に適応指導教室の設置

フリースクール等民間団体や関係団体との連携による支援

社会教育や地域のとの関わりによる支援

学びの多様化学校（不登校特例校）と夜間中学との併設

3 全くどこにも行くことができず学びが繋がっていない児童生徒への支援

→ICTの活用による支援、アウトリーチ支援、保護者支援

- ・不登校対応の原則：「学びを途切れさせてはいけない」、「人とつながる場を確保する」

グループワークから

「学校における現在の課題を踏まえ、これからの学校はどうあってほしいか」

<教員に関すること>

- ・生徒に対する偏見を持たない教/否定しない教員であってほしい。
- ・子どもたち一人一人の特性を理解し、教員全員が共有する。特に良いところの共有化。
- ・教員は本来の業務（教科指導）に専念すべき。→SC、SSWの増員
- ・小学校の教科担任制を推進。
- ・学校に居づらい子どもたちにスペシャリストとして対応できる人材の養成、確保。
- ・福祉と連携した教員養成。

<学校のシステム・構造に関すること>

- ・楽しい学校、居場所となる学校にしたい。希望のある学校。
- ・裏表のない学校（教員同士の人間関係が安定している）
- ・少人数の学校がいい。大人数であっても、クラスを複数担任制にすべき。
- ・養護教諭を増やす。…教員のメンタルケアも必要

- ・ 定時制の北斗高校の中学校バージョンがあればいい。
- ・ 自由度の高い学校：教員の時間的なゆとり、子どもたちのゆとりある学校生活
→保護者との合意形成が大切
- ・ 特別支援教育の原点に戻り、充実させる。
- ・ 発達特性に応じて「個別最適化」が必要。
- ・ 将来の志望に応じた教育内容の柔軟化。
- ・ インクルーシブ教育の推進が必要。
- ・ 転校など学校を変えられるような柔軟性があればいい。